

3 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要

○2009/10年度のとうもろこし需給（予測）のポイント

とうもろこしの供給面では、EU、中国等で減少するものの、米国、ブラジル、アルゼンチン等で増加が見込まれることから世界の生産量はわずかに増加が見込まれている。

需要面では、米国でエタノール原料用需要を中心とした増加、中国等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を下回ることから在庫が取り崩され、期末在庫率も低下し、需給は引き締まると見込まれている。

【生産量】

生産量は、前年度豊作であったEU、中国等で減少するものの、米国、ブラジル、アルゼンチン等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より1.2百万トン増加（0.2%）し、789.8百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で8.4百万トン上方修正されており、国別には米国等で作付面積の増加等から上方修正された。

【消費量】

消費量は、EU等で飼料用需要が減少するものの、米国でエタノール原料用需要を中心とした増加、中国等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より18.9百万トン増加（2.4%）し、794.5百万トンとなる見込みである。なお、世界全体の飼料用需要は、EU、米国で減少するものの、中国等では増加することから世界全体では増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体でわずかに下方修正されており、国別には米国で飼料用需要の上方修正から上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量（輸出量）は、前年度より3.1百万トン増加（3.9%）し、81.8百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では貿易量の約6割を占める米国等で輸出量の増加が、ウクライナ等で減少が見込まれている。一方、輸入国では、韓国、メキシコ等で輸入量の増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.3百万トン上方修正されており、国別には米国、ウクライナの輸出量が上方修正され、ブラジルの輸出量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を下回ることから、米国等で在庫が取り崩され、世界全体では前年度より4.6百万トン減少（▲3.2%）し、139.2百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も17.5%（1.0ポイント減）に低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で13.7百万トン上方修正されており、国別には米国、ブラジル等で上方修正され、EUで下方修正された。

表-1 世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	791.7	788.6	789.8	8.4	0.2
米国	331.2	307.4	312.2	9.0	1.6
中国	152.3	165.9	162.5	-	▲2.0
EU-27	47.6	62.4	56.4	▲0.1	▲9.6
ブラジル	58.6	49.5	54.0	-	9.1
メキシコ	23.6	25.0	24.0	-	▲4.0
インド	19.0	18.5	18.5	-	0.1
アルゼンチン	22.0	13.0	15.0	-	15.4
消費量	769.9	775.6	794.5	▲0.0	2.4
うち飼料用	496.5	479.4	483.3	0.8	0.8
米国	261.7	258.3	268.6	0.4	4.0
中国	149.0	152.0	158.0	-	3.9
EU-27	63.4	61.7	59.1	-	▲4.2
ブラジル	42.5	44.5	45.5	-	2.2
メキシコ	32.0	32.6	32.2	-	▲1.2
インド	14.2	17.6	17.4	-	▲1.1
日本	16.6	16.4	16.3	-	▲0.6
貿易量	98.6	78.7	81.8	0.3	3.9
(輸出)					
米国	61.9	45.7	49.5	1.3	8.3
ブラジル	7.8	9.0	9.0	▲1.0	0.0
アルゼンチン	14.8	7.0	9.0	-	28.6
ウクライナ	2.1	5.5	3.5	0.5	▲36.4
南アフリカ	2.2	2.5	2.0	-	▲20.0
パラグアイ	1.1	1.0	1.0	-	0.0
インド	4.5	0.6	1.0	-	66.7
(輸入)					
日本	16.6	16.5	16.3	-	▲1.2
メキシコ	9.6	7.4	7.5	-	1.4
韓国	9.3	7.0	7.5	-	7.1
エジプト	4.2	3.7	4.2	-	13.5
台湾	4.5	4.3	4.3	-	0.0
コロンビア	3.3	2.8	2.9	-	3.6
EU-27	14.0	2.5	2.5	-	0.0
期末在庫量	130.7	143.8	139.2	13.7	▲3.2
中国	39.4	53.1	57.1	0.4	7.6
米国	41.3	45.0	39.4	11.7	▲12.4
ブラジル	12.6	9.1	9.1	1.5	0.0
EU-27	5.0	6.2	4.0	▲0.1	▲35.4
メキシコ	4.1	3.8	3.1	-	▲19.6
南アフリカ	3.5	3.3	2.9	-	▲12.2
期末在庫率	17.0%	18.5%	17.5%	1.7	▲1.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

(2) とうもろこしの主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、米国農務省の6月の作付面積調査によると、前年度より作付・収穫面積が増加すると見込まれており、前年度より4.8百万トン増加(1.6%)し、312.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼養頭数の減少やバイオエタノール生産の副産物である乾燥デイスティラー・グレイン(DDG)の供給量の増加に伴い飼料用需要の減少が見込まれる一方で、再生可能燃料基準(RFS)によるバイオ燃料の義務付け使用量の増加や、ガソリン価格の上昇によるエタノール需要増を受けたガソリンへのブレンド意欲の向上などを反映してエタノール原料用需要の増加が見込まれることから、前年度より10.3百万トン増加(4.0%)し、268.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、安価な飼料用小麦の世界供給量が減少し、世界のとうもろこし輸入や飼料用需要が若干回復すると見込まれることから、前年度より3.8百万トン増加(8.3%)し、49.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は生産量が消費量と輸出量を下回ることから前年度より5.6百万トン減少(▲12.4%)し、39.4百万トンとなり、期末在庫率も12.4%(2.4ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度については、消費量が5.6百万トン下方修正、輸出量が1.2百万トン上方修正された結果、2009/10年度の期首在庫が4.3百万トン上方修正された。また、2009/10年度については、収穫面積の増加が見込まれ、生産量が9.0百万トン上方修正された。消費量は、食料用需要の下方修正を、とうもろこしの生産増と価格の低下による飼料用需要の上方修正が上回ったことから0.4百万トン上方修正され、輸出量が価格低下による米国産とうもろこしの輸出競争力の向上見通しにより1.3百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が11.7百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米国のとうもろこしの主要18州の生育進捗は7月19日現在、絹糸抽出率(シルキング)が31%となっている。中西部東域において低温で雨がちな天候が5月下旬まで続いたことから、平年より進捗は1から2週間ほど遅れている。

作柄については、生育に適した天候で推移していることから、7月19日現在で優良～良が71%と、前年度の同時期(65%)及び最終(64%)を上回っている。

我が国の輸入先国シェア 1位 (2008年数量ベース 98.9%)
世界の生産量シェア 1位 (2009/10年度 39.5%)
輸出量シェア 1位 (2009/10年度 60.6%)

表-2 米国のとうもろこし需給(市場年度:9月~翌年8月)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	331.2	307.4	312.2	9.0	1.6
消費量	261.7	258.3	268.6	0.4	4.0
うち飼料用	150.8	133.4	132.1	1.3	▲1.0
エタノール用	76.9	92.7	104.1	-	12.3
輸 出 量	61.9	45.7	49.5	1.3	8.3
輸 入 量	0.5	0.4	0.4	-	0.0
期末在庫量	41.3	45.0	39.4	11.7	▲12.4
期末在庫率	12.8%	14.8%	12.4%	3.6	▲2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	35.01	31.83	32.42	0.93	1.9
単収(t/ha)	9.46	9.66	9.63	-	▲0.3

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain:World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

○ 米国とうもろこしの生育進捗状況及び作柄(7月19日現在)

[生育進捗状況]

絹糸抽出率 31%(平年差:▲23p、前年産:±0p)

[作柄]

		単位:%				
		優良	良	普通	不良	極不良
とうもろこし	2009/10	18	53	22	5	2
	前年度同時期	16	49	25	7	3
	前年度最終	17	47	25	8	3

注:優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料:USDA「Crop Progress」

注:生育進捗状況の()内は前年同時期及び同時期の平年値(過去5年)との比較である。

イ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、収穫面積は増加するものの、前年度の記録的な豊作に比べ単収は低下すると予想されることから前年度より3.4百万トン減少（▲2.0%）し、162.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、食肉需要が堅調なことから飼料用需要を中心に前年度より6.0百万トン増加（3.9%）し、158.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.2百万トン増加（100.0%）し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より4.0百万トン増加（7.6%）し、57.1百万トンとなり、期末在庫率は36.3%（1.2ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の実産量が0.4百万トン上方修正されたため、2009/10年度の期首在庫が0.4百万トン上方修正された。その結果、2009/10年度の期末在庫が0.4百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

中国のとうもろこしは、主要産地の黒龍江省で5月以降、雨不足に加えて、高温の影響などで深刻な干ばつが発生したが、6月には、過度の降雨と低温の影響があり生育が遅れている。

【貿易情報等】

中国については、2007年12月に増値税の輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を課していたが、12月1日からとうもろこしの輸出税は撤廃されている。

なお、2008年度は、豊作により新穀が市場に大量に出回ったことから、中国政府は4度の買上げ（計40.0百万トン計画）を行い、4月末までに備蓄を終了した。なお、備蓄については7月下旬から放出を開始した。

（世界の生産量シェア 2位（2009/10年度 20.6%））

表-3 中国のとうもろこし需給（市場年度：10月～翌年9月）

（単位：百万トン）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	152.3	165.9	162.5 (160.0)	-	▲ 2.0
消費量	149.0	152.0	158.0 (160.0)	-	3.9
うち飼料用	105.0	110.0	115.0 (110.0)	-	4.5
輸 出 量	0.6	0.3	0.5 (1.0)	-	100.0
輸 入 量	0.0	0.1	0.1 (0.2)	-	0.0
期末在庫量	39.4	53.1	57.1 (58.5)	0.4	7.6
期末在庫率	26.3%	34.9%	36.1% (36.3%)	0.3	1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.48	29.40	29.50 (…)	-	0.3
単収(t/ha)	5.17	5.64	5.51 (…)	-	▲ 2.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (25 June 2009)」

ウ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、収穫面積は減少するものの、前年度に主要生産地域で干ばつの影響を受け低下した単収が回復すると見込まれることから、前年度より2.0百万トン増加（15.4%）し、15.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少に伴い前年度より0.8百万トン減少（▲11.9%）し、5.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから前年度より2.0百万トン増加（28.6%）し、9.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.1百万トン増加（9.2%）し、1.5百万トンとなり、期末在庫率は前年度並みの10.3%となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度のアルゼンチンのとうもろこしについては、7月22日現在、収穫は終了した。ブエノスアイレス州の一部地域の収量は平年並みと予想されているが、コルドバ州やサンタフェ州などその他の産地では2月に広範囲に降雨があったものの、時期が遅く、作柄を回復させるまでには到らなかった。高温・乾燥状態が続いたことで壊滅的打撃を受け、とうもろこしの栽培を断念した農家も出ている。一部は収穫されず、牧草として利用される。なお、1月26日に非常事態が宣言されている。加えて、主要産地では施肥量を減らした農家もあり、単収の低下が懸念されている。

なお、2009/10年度の作付けは例年9月頃から開始される。

【貿易情報】

輸出登録手続きは2008年2月に再開されたが、9月中旬頃から輸出登録を停止した。再開時期は未定となっている。なお、輸業者が輸出税を前払いすれば、申告から120日以内に出荷、船積みすれば良いこととなっていたが、さらに、本年6月には生産者から政府公示価格での買い上げ等を条件に申告から365日以内に出荷、船積が可能となった。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、3月には大豆の輸出税引き下げを求めて穀物の売却を拒否するストライキを行った。

（我が国の輸入先国シェア2位（2008年数量ベース 0.5%）
世界の輸出量シェア 2位（2009/10年度 11.0%））

表-4 アルゼンチンのとうもろこし需給
(市場年度：翌年3月～翌々年2月)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	22.0	13.0	15.0 (18.0)	-	15.4
消費量	7.0	6.7	5.9 (6.8)	-	▲ 11.9
うち飼料用	5.1	4.8	4.0 (4.9)	-	▲ 16.7
輸 出 量	14.8	7.0	9.0 (11.0)	-	28.6
輸 入 量	0.1	0.1	0.0 (0.0)	-	…
期末在庫量	2.0	1.4	1.5 (0.8)	-	9.2
期末在庫率	9.1%	10.3%	10.3% (4.3%)	-	0.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	3.41	2.25	2.00 (…)	-	▲ 11.1
単収(t/ha)	6.45	5.78	7.50 (…)	-	29.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (25 June 2009)」

エ ブラジル

【需給状況】

ブラジルの生産量は、収穫面積は減少するものの、前年度に南部の主要生産地域で干ばつの影響を受け低下した単収が回復すると見込まれることから、前年度より4.5百万トン増加(9.1%)し、54.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加等から前年度より1.0百万トン増加(2.2%)し、45.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度並みの、9.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度並の、9.1百万トンとなり、期末在庫率も16.7%(0.3ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2008/09年度の実績が生産量が干ばつの影響により0.5百万トン、米国との輸出競争が激化したことにより、輸出量が1.0百万トン下方修正されたことから、2009/10年度の期首在庫量が0.5百万トン上方修正された。また、2009/10年度の輸出量が1.0百万トン下方修正された。その結果、期末在庫量が1.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度のブラジルの夏とうもろこしは、5月末までに収穫は終了した。主要産地の南部の各州で11月～1月まで続いた干ばつにより作柄が悪化した。

早期大豆の収穫後に作付けされた冬とうもろこしについては、7月に入り、パラナ、マトグロッソ州で収穫が開始された。パラナ州では霜害、中西部のマトグロッソドスル州等で生育期の干ばつによる単収の低下が懸念されている。なお、2009/10年度の夏とうもろこしの作付けは、例年10月中旬頃から開始される。

オ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、とうもろこし価格の低下と生産コストの上昇による採算の悪化懸念から面積の減少が見込まれ、単収も天候に恵まれた前年度の高単収に比べ減少すると見込まれることから、前年度より6.0百万トン減少(▲9.6%)し、56.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要が減少することから前年度より2.6百万トン減少(▲4.2%)し、59.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、とうもろこし価格がロシアやパラグアイなど他の輸出国に比べ高いため伸びず、前年度並みの、2.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度並みの、2.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が消費量を下回ることから前年度より2.2百万トン減少(▲35.4%)し、4.0百万トンとなり、期末在庫率も6.5%(3.2ポイント減)と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、作付面積がフランスで増加するものの、イタリアやルーマニア等で乾燥による生育条件の悪化が見込まれることから、生産量が0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が0.1百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

作付けは、4月頃から開始され、6月上旬でおおむね終了した。東欧とイタリアで5月の雨不足の影響があったが、ハンガリーでは6月の降雨により緩和された。一方、フランス等の主要生産地域で良好な天候が続いていることから順調に生育している。

【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

(世界の生産量シェア4位(2009/10年度 6.8%)
輸出量シェア2位(2009/10年度 11.0%))

表-5 ブラジルのとうもろこし需給
(市場年度: 翌年3月～翌々年2月)

(単位: 百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	58.6	49.5	54.0 (53.0)	-	9.1
消費量	42.5	44.5	45.5 (46.3)	-	2.2
うち飼料用	36.0	37.0	38.0 (39.5)	-	2.7
輸 出 量	7.8	9.0	9.0 (10.0)	▲ 1.0	0.0
輸 入 量	0.7	0.5	0.5 (0.8)	-	0.0
期末在庫量	12.6	9.1	9.1 (4.9)	1.5	0.0
期末在庫率	25.0%	17.0%	16.7% (8.7%)	3.0	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	14.70	14.10	14.00 (…)	-	▲ 0.7
単収(t/ha)	3.99	3.51	3.86 (…)	-	10.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (25 June 2009)」

(世界の生産量シェア3位(2009/10年度 7.1%))

表-6 EU-27のとうもろこし需給(市場年度: 10月～翌年9月)

(単位: 百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	47.6	62.4	56.4 (57.8)	▲ 0.1	▲ 9.6
消費量	63.4	61.7	59.1 (60.7)	-	▲ 4.2
うち飼料用	50.6	47.2	44.3 (45.4)	-	▲ 6.1
輸 出 量	0.6	2.0	2.0 (1.0)	-	0.0
輸 入 量	14.0	2.5	2.5 (3.5)	-	0.0
期末在庫量	5.0	6.2	4.0 (6.4)	▲ 0.1	▲ 35.4
期末在庫率	7.8%	9.7%	6.5% (10.3%)	▲ 0.2	▲ 3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.44	8.89	8.71 (…)	0.08	▲ 2.0
単収(t/ha)	5.63	7.02	6.48 (…)	▲ 0.06	▲ 7.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (25 June 2009)」